

サービス業

業況、売上、採算

今期（2022.4～6）の業況判断DIは4.3で、前年同期（2021.4～6）と比べ34.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

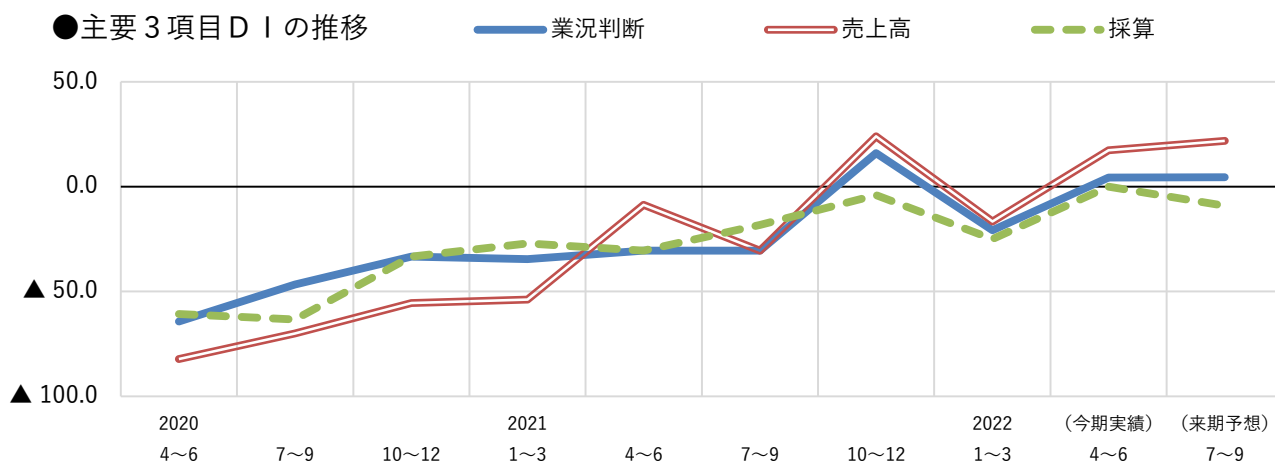
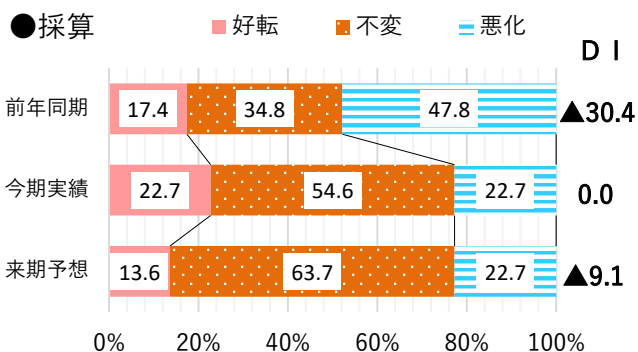
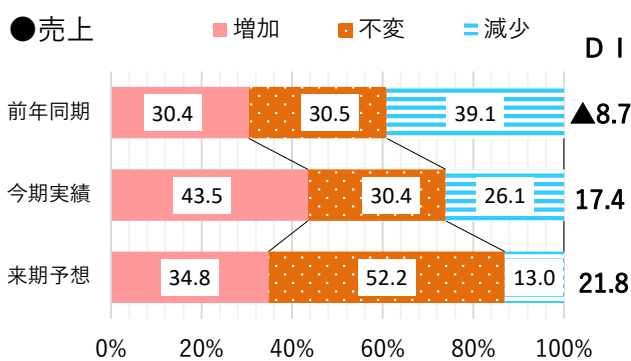
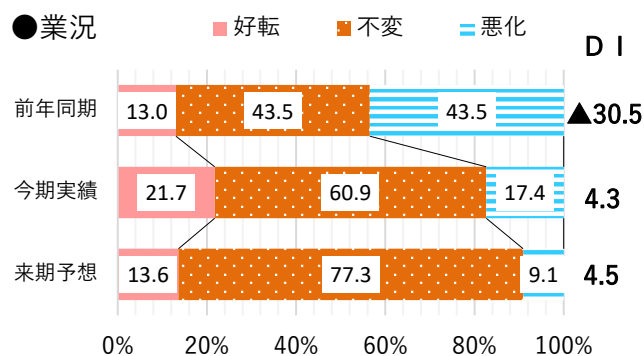
来期（2022.7～9）は、業況に大きな変化はないと予想しています。

今期の売上高DIは▲17.4で、前年同期と比べ26.1ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上に大きな変化はないと予想しています。

今期の採算DIは0.0で、前年同期と比べ30.4ポイントと大幅に上昇しました。

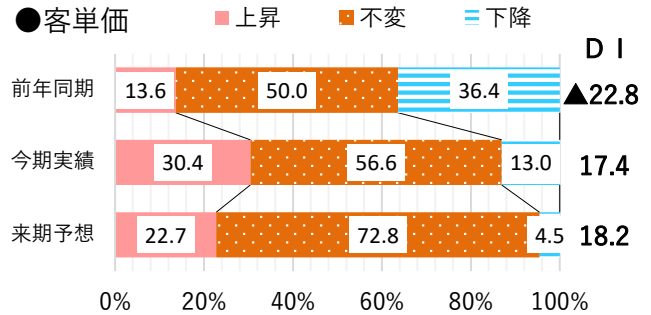
来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



客単価、利用客数、仕入単価

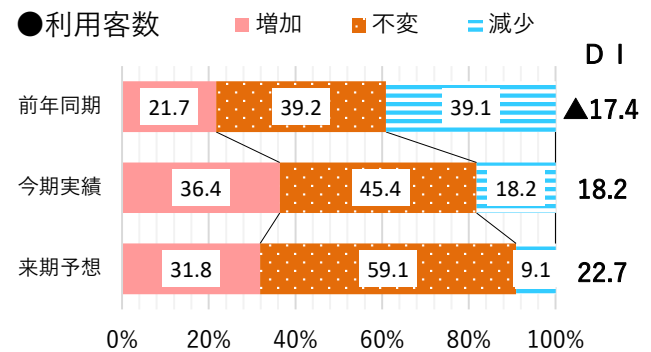
今期の客単価DIは▲17.4で、前年同期と比べ40.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価に大きな変化はないと予想しています。



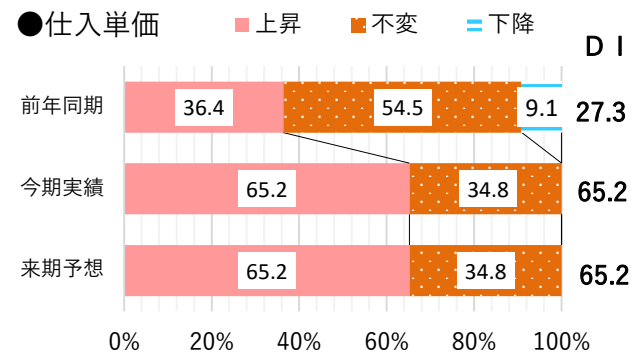
今期の利用客数DIは▲18.2で、前年同期と比べ35.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、利用客数に大きな変化はないと予想しています。



今期の仕入単価DIは65.2で、前年同期と比べ37.9ポイントと大幅に上昇しました。

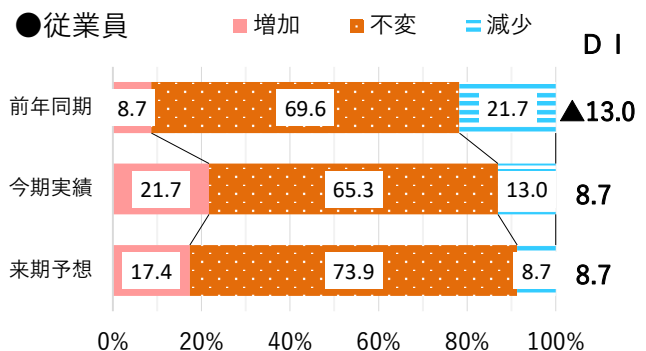
来期は、仕入単価の横ばいを予想しています。



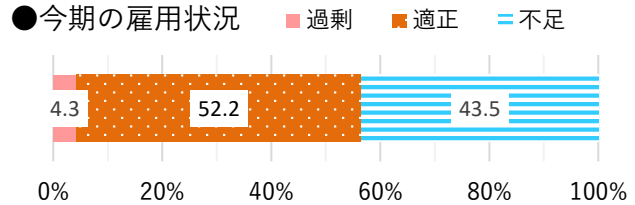
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは8.7で、前年同期と比べ21.7ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.3%、適正であると回答した企業の割合は52.2%、不足していると回答した企業の割合は43.5%でした。



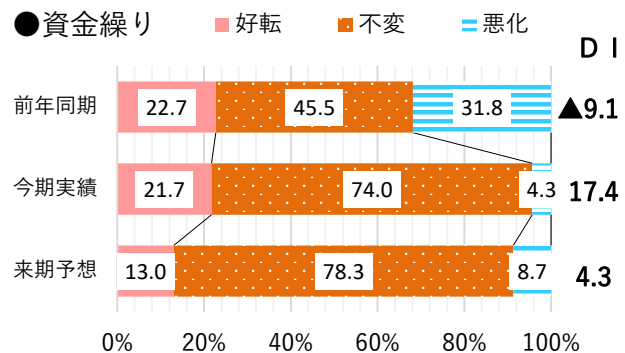
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、サービス業全体の39.1%を占めています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	2

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

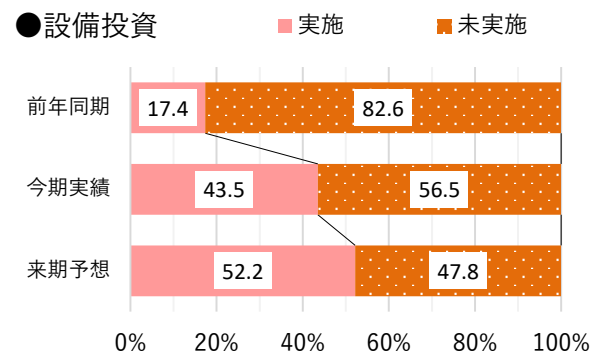
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは17.4で、前年同期と比べ26.5ポイント上昇し、プラスに転じました。



来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。

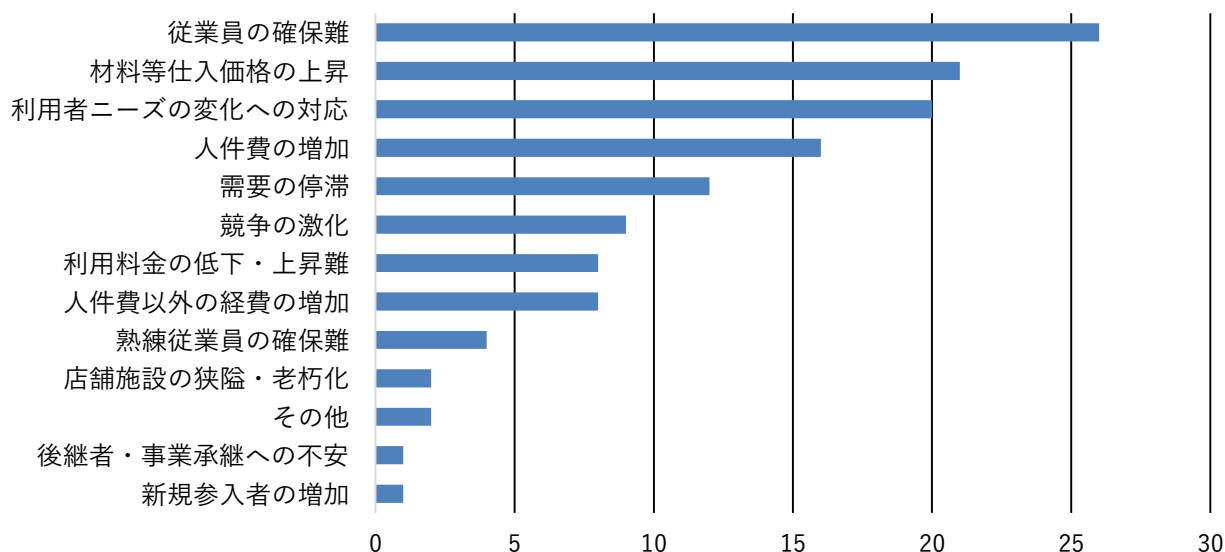
設備投資を実施した企業の割合は43.5%で、前年同期と比べ26.1%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「サービス設備」、「OA機器」の順です。



来期に設備投資を計画している企業の割合は52.2%で、増加を予想しています。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「利用者ニーズの変化への対応」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- まん延防止等重点措置が解除されてから、道内の他市町村や本州からの来客が徐々に増えているが、材料等の値上げが多く、採算に大きな変化はない。(飲食店)
- 昨年同期は、新型コロナウイルスの影響で4～6月実施の修学旅行等が秋へ延期になり、売上が大きく減少したが、今期は予定通り実施されたため、好転した。一般利用者も増えつつある。(旅行代理店)
- 人材確保に苦労している。(出版業)
- 物価上昇により、トリートメントやヘッドスパ等のオプションの利用を控える傾向が見られ、客単価が伸び悩んだ。仕入単価が上昇した。人材確保の状況や賃金に変わりはない。(美容業)
- 全般的にコストが上昇し、収益が減少した。テナント料を引き上げる。(ビルメンテナンス)
- 最低賃金の引き上げによる採算の悪化が懸念される。(ビルメンテナンス)
- 観光客や市民の行動が活発化し、売上が増加した。(ビルメンテナンス)
- 前期比の客数増加と、営業努力による客単価の上昇により売上が増加した。(不動産代理・仲介業)
- 新型コロナウイルスの影響はなく、コロナ禍の状況に戻った。(スポーツ施設)
- 利用客数の減少に加え、仕入価格が上昇したことで利益が減少した。(写真業)
- 利用客数の減少は避けられない。(教養・技能教授業)
- 医療関連事業を行っているため、コロナ禍ではあるが業績は伸びている。仕入先からのメーカーから、値上受け入れの要請が多数ある。工場の燃料費は高止まりの状況にある。人材が充足している部署と不足している部署があり、営業の人材不足が課題だ。(各種物品賃貸業)

[来期の業況について]

- 夏に向けて客数が増えると思うが、材料仕入価格が高騰しているため、現在の収益を維持または若干増加できれば良いと思う。(飲食店)
- 今期以上に業況が悪化すると、非常に厳しい。(飲食店)
- 旅行業界全体は回復傾向にあるが、7～9月は修学旅行等大型の顧客がなく、一般の団体客の動きはまだ少ないため、業況は悪化を予想する。(旅行代理店)
- 新規事業を検討しているので、人材確保を考えたい。(出版業)

- 例年夏は客数が増えるので、今年も同様だと思う。仕入価格は上昇傾向が続くと思われる。人材の採用などは予定していない。売上が増加すれば、従業員の賃金を引き上げたい。(美容業)
- 売上は増加を見込むが、原油、原材料、資材、電気料金等の高騰により、採算の好転は難しいと思う。(ビルメンテナンス)
- 新型コロナウイルスやウクライナ情勢の影響で、見通しが立てづらい。(ビルメンテナンス)
- テナント料の値上げにより、好転を見込む。(ビルメンテナンス)
- 顧客の動向を注視し、売上の増加傾向や客単価の上昇傾向を維持したい。(不動産代理・仲介業)
- 物価上昇を受け、7月からサービス価格の引き上げを予定するが、収益は増加しないと思う。(写真業)
- 資金繰りは好転するが、客数減少は避けられない。収入に見合った会社規模を検討する必要がある。(教養・技能教授業)
- ロシアのウクライナ侵攻により、燃料費の高騰が懸念される。請負業務など、労働集約型事業も行っているため、積極的に人材を確保していきたい。(各種物品賃貸業)